



礎 いしずえ

第49号

2024年(令和6年)

12月

発行／～地域力つなぐ～枚二校区コミュニティ協議会

編集／コミュニティ協議会広報部

今日も行くところがある



人生100年時代。「まあ、年を取ってからも学ぶことはたくさんある」と、老後生活を送る上でのポイントとして「きょういく」「きょうようよう」というキーワードを使うことがあります。すなわち「今日行くところ」と「今日の用事」。生涯大事な言葉です。

離れた心呼び戻す

核家族化や世帯規模の縮小が進む現況、日常的なかわり、ふれあいの機会が減少してコミュニケーションを避け、一人二人と、仲間から離れていく様子を見ることがあります。

戻ってきた人で「仲間づくり」

ここはホッと一息つける場所



ボランティアで「居場所づくり」

午後のひととき。
「コーヒーにしますか？ それとも紅茶がいいですか」
定年などの理由で民生委員の務めを終えたあとも、大人の居場所づくりに携わってくれる人たち。
4年前、いったん幕を下ろしたコミュニティ・カフェテリア方式の「枚二みつば」。今年、装いを新たにしました。
3か所あった居場所を「岡集会所」に集約。「お久しぶり」となじみの人らが戻ってくる第2金曜日、飲み物を手に会話の花を咲かせます。



社協や地域包括職員も顔を出し、話しかけたり、課題を探り合ったりします。

「肩車型社会」が来る

超高齢化の問題点は「1人の高齢者を何人の現役世代(生産年齢人口)で支えているか」

▽1975年 7.7人

▽2000年 3.6人

▽2025年 1.9人

現役世代が多かった時代は「胴上げ型」。今は胴上げに回る人口が減り、約2人で支える「騎馬戦型」。将来、1人で担う時代が来ると「肩車型」という社会になります。

(資料II人口問題関連)

「私たちにできることは」
長く働き活動し、現役世代の負担を減らさなければなりません。健康寿命を限りなく延ばす意識を持つことが大事です。

この日、友人とカフェに訪れた石橋春子さん(87)は人生について「年齢はあまり気にかけないが、友だちに問われてハツとすることはある」「毎日鏡を見ているが、写真に写る背中では丸くなった」と、新たな気づきと良好な健康状態をアピールしていました。

紙の使用やめて3年。脱炭素に貢献

こうして今年、緑の豊かさを守るために設けられた聞きなれない「森林環境税」を住民が負担します。その税収が国から「森林環境譲与税」として自治体等へ譲与され、森林整備や木材の利用促進に活用し脱炭素につながります。

「iPad導入と森林環境譲与」

枚二校区ではこれまで、定例会議や定時総会で使用する資料はすべて紙様式でした。ホチキス止めもし、出席者全員に配布する作業は膨大なものでした。



会議などでペーパーレスを推進すると、紙書類の廃棄が減り、自然環境の保全につながります。また、生産原料となる森林の伐採量が抑えられるため、地球上の貴重な資源が守られます。

枚方中学校生が伝授！

ICT活用推進

部活

助け合い実践講座

しかし、iPadの使用には難題があります。「操作方法は簡単ではない」「その他の活用方法は…」といった現役を終えて時間が経つ役員たちのSOSサインです。

方式などによる「iPad講座」を開きました。委員は1年生と2年生が中心で、経験を積みコミュニケーションを学びます。そして一歩進んだ7月は、手書きのノートアプリ「グッドノート」と画像デザイン編集アプリ「キャンバ」のiPad活用をプレゼンテーション。生徒、役員全員で実践しました。

ICT委員長の加藤さんは「タブレットの活用方法をどのように発表し、どう伝えるかを考え実践できるよい機会になりました」



▲プレゼンの様子と委員のメンバー（下段写真の左から5人と右から2人目は西村校長（7月）



校長らと会って生徒たちの思いを伝えました。つながりができ、両校中学生同士交流の一步となりました。

子どもの不登校問題

地域で向き合う



枚二小学校はまであと数分のところの急な登り坂で、地区登校班の列が乱れる。新入生は前方を歩く

小中学校における不登校児童生徒数は34万人。この問題を親身に考えようと枚二では、「地域とともにある学校づくり」の一環として小学校教員の負担軽減を念頭に置き、専門家の手を借りない「学校をより楽しくするプロジェクト」をスタートしました。

取り組みには枚方保育所と枚方幼稚園の所長・園長も参加。子どもは「就学前後が最も大切」として、つまづきや行き渋り、戸惑いをなくすために意見を出し合います。

学校をより楽しくするプロジェクト発足・枚二小

登り坂と段差

【コミュニティ会長】

「『学び舎』としてだけでなく、『遊びや』『楽しみや』などの要素を取り入れ、より楽しい居場所にしていく必要がある」

【幼稚園・園長】

「小学校入学後、地区登校班の歩くスピードについていけない児童がいて児童も保護者も困っている、と聞く」

【保育所・所長】

「就学前施設として小学校への段差をなくすために努力している。小学校の先生にも来所してもらっている」

快適な空間づくり

9月6日（金）は一つの区切りをつけ、プロジェクト委員12名が参加。場所は新型オーディオセット（スピーカー4つ）を揃えた枚二小・学校図書館。「新たな不登校を生まないこと」を目標とし、屋内外の環境形成など快適な空間を創造していきます。



誰もがあくつろげる新設「ほっとルーム」

①「図書館内の充実はかなり厳しい」ので、外装の木目張りなど、ぬくもりを感じさせる「懐古的な」ものを進めたい。

読みたい本がきっと見つかる！



窓以外は全部本棚。学校図書館での意見交換会、会議（9月21日）

■進言

②「教室に居づらい児童が一定数いる」が、空き教室を改良して「ほっとルーム」が新設できた。居場所づくりの先行事例として内外にアピールしていきたい。

9月21日（土）は市長との「意見交換会」の席で本取り組みに言及しました。伏見市長は「地域での対応はありがたい。子どもたちの豊かな心を育んでほしい」と期待感を寄せていました。

「能登」紡ぐプロジェクト

有志

同中学校では、生徒有志でプロジェクトチームを組んで活動する事例があります。

能登半島地震を受け、学習機会を確保するために親元を離れ、集団避難を選んだ同年代の中学生に心を痛め、「能登支援をしたい」と礎で取材・既報の通り、枚方市駅近くで街頭募金活動を行いました。

その状況と、石川県の現状をスライド作成した「のとプロ」報告会が1学期末の生徒集会でありました（写真）。

西村校長は「募金に協力いただいた方への感謝の気持ちが高く伝わっている」と高く評価。後日、校長と教育関係者らが同県珠洲市を訪問することになり、同市長、同市立緑丘中学



「全員集合」地域のチカラと区民体育祭のカタチ 2024.10.27

約2分の動画。こちらも見てください



大縄のアーチ



「おやつ時間」は10時10分



入れ方には「コツ」がある

前日まで「雨」のお天気情報を「晴れ」に見直し！

それでも「どしやぶり」



見直し元年

枚二小学校が開校されたところに生まれ、これまで大きな変更点などはなかった区民体育祭。今回初めて「参加希望者が少ない」一部種目を外すなどして見直し、「誰もが楽しく参加」できることを重視。人影が伸びる朝、多くの参加者がグラウンドに集まりました(左写真)。

「どしやぶり」は年代別、「〇×クイズ」は年齢に関係なく、ユニークな発想を取り入れた競技です。

各競技とも子どもたちは喜びいっぱい。賞品係にお礼を言っていました。



賞品の中身は学習用品や生活用品です

「Kチーム早い！ みんながんばってください」「Oチーム1着です！」



昼食後は「〇×クイズ」



交通安全から防災、歴史、人口の問題まで全10問正解者は7人(右写真)。そのうち家族4人で参加した川原町の子も(5)は1人勝ち残り、問題は「カンタンやった」と笑顔でした。

こぼさないように「水」の大切さを肌で感じる



勝利の旗は右か左か！



ゴールは間近。目に飛び込んできたのは、百済王神社の場所をわかりやすくするため赤に塗り替わった鳥居。4〜7世紀ごろに朝鮮半島で栄えた百済は、日本とのかかわりが最も深い古代王国です。百済滅亡後、日本に亡命した一族は大いに存在感を示します。

聖武天皇の時代、東大寺の大仏造立に際し、百済王(氏族名)くのだらの(こにきし)の子孫・敬福が大仏塗金のために黄金900両を献上。天皇は大いに喜ばれ、これを機に一族は難波の地を離れ、以前よりかかわりの深かった天野

川を一望する「河内国交野郡中宮」に住まいを移します。8世紀後半(奈良時代)、この地に、百済王氏の祖霊を祭る百済寺と神社を建立したとされます。その後、天皇の遊獵は絶え、百済寺も焼失してしまいが、神社祭祀は続けられました。

三松家の存在

中宮の邸宅の庭に3本の松があったので、三松(みつまつ)家を名乗った百済王氏の子孫。三松家は代々河内検断職を兼ね王氏の祖廟を守りましたが、秀吉の太閤検地により中宮の地を追われること。三松家は所領の大垣内へ農民として移り住みます。

大垣内・百済王神社誕生

三松家は中宮から中宮の百済王神社へ奉仕のため通っていたが、江戸時代に入って天野川の洪水がたびたび起こり、通えなくなりました。慶安3年(1650年)、三松家の邸宅内に社を建て、中宮百済王神社の祖霊を勧請し、大垣内の産土神としての「百済王神社」が誕生しました。



平成14年に建て替えられた拝殿と同時期の石造物



正徳3年建立の鳥居下で清水さんの解説を聞く老人クラブのメンバー

「全国歩けば歴史に当たる」と、自分らしい生き方を求める清水さん。ありがとうございます。

鳥居は神社の内と外を分ける意味があるとされます。隣の公園でボール遊びする小学生たちは、神様の領域に入ります。大人から教わったことを守っています。

一方、静けさを物語る大垣内の社。この地に三松家の姓を継ぐ方が元旦にお参りされます。地元の人は「会話はあいさつを交わす程度です」と言葉少なげに話します。

* 「全国歩けば歴史に当たる」と、自分らしい生き方を求める清水さん。ありがとうございます。

鳥居に学ぶもの

中宮の百済王神社を形成する現在の建造物、石造物はすべて江戸時代中期以降のもです。

昭和30年に再興された社殿は、さらに平成14年に新しい拝殿に建て替えられ、左右対称に並ぶ狛犬、灯籠の石造物も同時期の造りです。

参道に設けられた鳥居は最も古く、正徳3年(1713年)建立。

再興と建て替えが行われた中宮の地へ



二つの百済王神社 歴史の裏側に迫る

老人クラブの会員が興味を持ち、古代文化と民族の謎に迫ります。

中宮西之町1に特別史跡の百済寺(くだらでら)跡があり、寺院の遺構が復元されています。公園として整備され、その西端に百済王(くだらおう)神社があり、枚方市駅からほど近い大垣内町1にも同名の神社があります。



大垣内・百済王神社の鳥居下で清水さん(左)と地元の人



社(上)とその奥にある本殿(下)



「中宮の百済王神社から歩いて20分ほどのところに、なぜ同じ名前の神社があるのか」枚方観光ボランティアガイドの清水源久さん(82)にお願いして、歴史を学ぶ岡南町

5月中旬、清水さんと地元の人案内で、3人で大垣内に向かいました。午前、迎いはうっそうとした木々に覆われ、足元に注意して上っていくと鳥居がありました。額には「百済王神社」と刻まれています。少し進むと、小高い丘の頂に屋根と柱のみ残っている社が現れました。地元の年間の

歩いて体感「百済の道」



祭典があるため、中は清掃されています。中央の通路をくぐると小さな「本殿」が建っていました。さい銭箱があるだけで、古代がわかる説明書きなどは見当たりにません。

ならば「小さな神社の裏側に大きな歴史が控えている」という主観的な考えに立つて中宮の地へ向かうことにしました。

(7面に続く)



枚一 新たな暮らしとまちづくり

江戸の町から未来へつなぐ



新町・江戸の町家住宅前をゆっくり西進

枚方市駅近くは今、市の観光情報発信拠点「Syuku56」とたくさんの店舗が入った高層ビルが建ち、にぎわいのある街と閑静なたたずまいを見せる街の双方を感じることができます

意賀見神社奉納 ふとん太鼓「安全」巡行



旧街道と並行する新しい道。周辺工事が続き、バックは「ステーションヒル枚方」

枚方「まちづくり」の象徴ともいえる意賀見神社の秋祭り、ふとん太鼓巡行が10月13日(日)にあり、4町が東海道56番目の「枚方宿」を練り歩きました。

新町は旧街道の景観を形作る江戸の町家住宅前を通り、市駅前に竣工した29階建て複合施設「ステーションヒル枚方」と古い建物から14階マンションに建て替えられた

「OPH枚方駅前」を背景に巡行。2トンもあるみこしは重い分だけ迫力満点、時代を超えたコラボレーションが未来を創造します。

細い道筋が残る旧街道はゆっくり進んで方向転換。一般車道を通る時は、信号で「止まれ、進め」など警備・誘導も大事な役割です。

今年の当番町で、新町の祭り世話役・南昌克さん(62)は事前の備えと出発前のあいさつから運行まで、300年以上続く伝統行事の安全を図っていました。

編集後記

人口減少が進むなかで「土地利用の変化と課題」があります。旧街道筋は駐車場が増えるが、ある地域は空き家が減り、マンションが建ち進んでいます。人口回復期待に相反して悩み深いのが、地域行事など社会参加の少なさです◆大学生が、区民体育祭で活躍する子どもたちの写真をたくさん撮ってくれました。運動会にはなく、親子で楽しめる競技がある体育祭。子どもは地域社会の中で大人や年齢の違う友人と交流し、体験を積み重ねていくことが大切です◆「小学校を出て年月が浅いのに、こんなことができるのか」と強く印象付けられるのが、地域に学ぶ中学生の貢献活動です。困っている人を支え助けて、自らの成長につなげる。子どもたちを中心とした地域コミュニケーション発展への期待感が高まってきました。